

地域の経済動向調査報告書

(2023年1月～12月)

2024年3月

陸前高田商工会

目次

I RESASの地域経済データ	1
1. 地域経済循環マップ・生産分析	1
(1) 地域経済循環図	2
(2) 生産分析	4
2. まちづくりマップ・From-to 分析	6
(1) 滞在人口の月別推移と時間別推移	7
(2) 滞在人口の地域別構成割合	9
(3) 滞在人口の地域別構成割合〔市町村→市町村〕	10
3. 産業構造マップ	12
(1) 企業数・事業所数・従業者数の推移	12
(2) 産業大分類による全産業の構造	13
(3) 卸売業・小売業の年間商品販売額の変化	15
II 市内来訪者調査	16
III 岩手県における最近の景況	18
1. 2022 年 1 月から 6 月の概況	18
2. 2022 年 7 月から 12 月の概況	19

I RESASの地域経済データ

当地域において真に稼げる産業や事業者に対し、限られたマンパワーや政策資源を集中投下し、効率的な経済活性化を目指すため、経営指導員等が「RESAS」（地域経済分析システム）を活用し、以下の各マップから、地域の経済動向の把握を試みた。

各マップから把握できる事項

マップ	把握できる事項
地域経済循環図・生産分析	陸前高田市の地域経済は何で稼いでいるか等
まちづくりマップ・From-to 分析	陸前高田市における人の動き等
産業構造マップ	陸前高田市の産業の現状等

1. 地域経済循環図・生産分析

地域経済循環図について、2010年と2018年のRESAS改定データ（2024年3月現在）を示す。

生産（付加価値額）は、企業でいえば、粗利益の部分であり、地域の稼ぎを分配する前の「もうけ」の総額を示している。本市では第3次産業の付加価値額が最も多く、2018年データでは5割を占めている。2010年との比較では、第2次産業の割合が高まっており、2010年は127億円（24.4%）、2018年データでは322億円（45.7%）になっている。

分配（所得）では、復興関連交付金等が含まれていることによって、「その他の所得」の市外からの流入が大きくなっている。「雇用者所得（住民の賃金や給料等）」では、2018年データでは22億円が市外からの流入である。これは、市民が市外に勤務して、給料等を本市に持ち帰っている分である。なお、雇用者所得の一人当たりの全国市町村（1,741市区町村）順位は、468位である。

支出をみると、住民の消費等を示す「民間消費額」では、42億円が市外に流出している。2010年データでは、逆に56億円が市外から流入していた。

生産分析では、産業中分類別にみた市内産業の構成を付加価値額（総額）でみると、構成割合が高い順に、「建設業」（39.8%）、「住宅賃貸業」（11.1%）、「公務」（7.5%）、「保健衛生・社会事業」（7.2%）、「小売業」（5.3%）である。

この付加価値額（総額）の構成を、移出入収支（市外から所得を稼いでいる産業）額別にみると、収支額がプラスである産業は、その額が高い順に、「水産業」（17億円）、「小売業」（6億円）、「農業」（9億円）、「住宅賃貸業」と「小売業」（各1億円）となっている。

(1) 地域経済循環図

※この節で扱うデータについて

【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
地域経済循環分析 <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html>

【注記】

本データの詳細な分析方法については、以下URLを参照。

<http://www.vmi.co.jp/reca/>

「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。（値が高いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）

「雇用者所得」とは、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等をいう。

「その他所得」は、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成される。

「その他支出」は、「政府支出」+「地域内産業の移輸出-移輸入」により構成される。

例えば、移輸入が移輸出を大きく上回り、その差が政府支出額を上回る場合（域外からの財・サービスの購入を通じた所得流出額が政府支出額よりも大きい場合）は、「その他支出」の金額がマイナスとなる。

「支出流出率」とは、地域内に支出された金額に対する地域外から流入・地域外に流出した金額の割合で、プラスの値は地域外からの流入、マイナスの値は地域外への流出を示す。

我が国の国民経済計算体系は、平成27年国民経済計算より1993SNAから2008SNAに改定されたため、2015年地域経済循環分析用データも2008SNAで構築した。これに伴い、2010年および2013年データについても、時系列比較を可能とするため、2008SNAで再構築をしている。

本データは国民経済計算、県民経済計算、国勢調査、経済センサス等のデータを用いて、全国の市町村のデータを統一的方法で作成している。

国民経済計算や県民経済計算は、精度向上を目的に推計方法については絶えず見直しを行っている関係上、随時、過去に遡って改定がなされるため、本データのデータ更新時には、これまで公開していた数値から変化する場合がある。

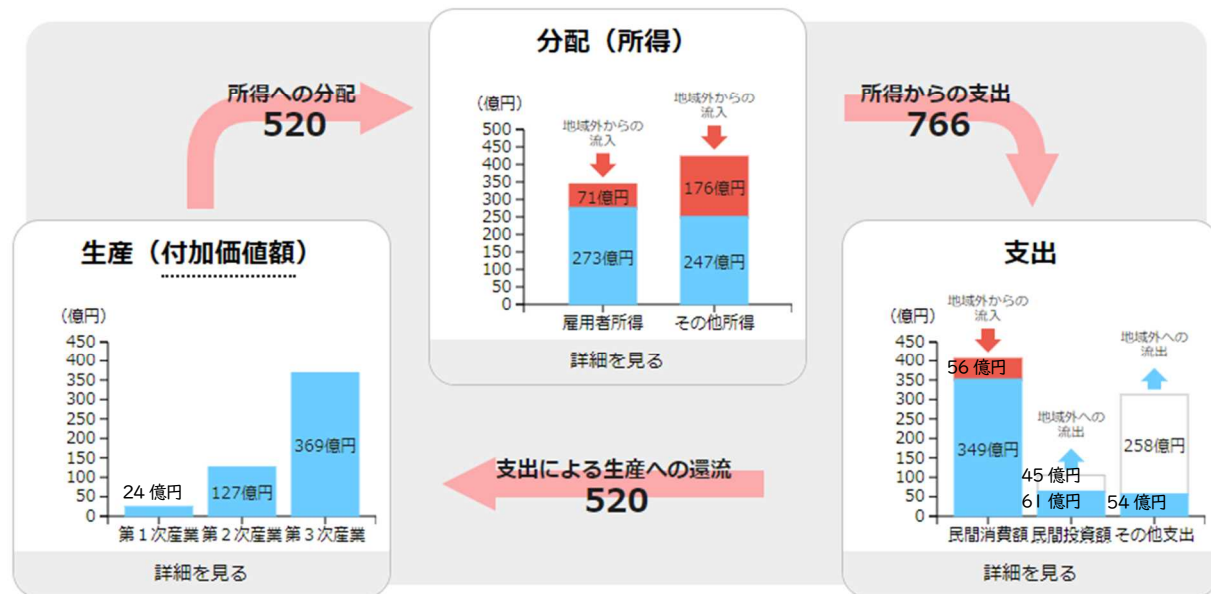
地域経済循環率

67.8%

地域経済循環図

2010年

指定地域：岩手県陸前高田市



生産（付加価値額）

分配（所得）

支出

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額（一人当たり）	166万円	548万円	737万円
付加価値額（一人当たり）順位	1,357位	1,199位	881位

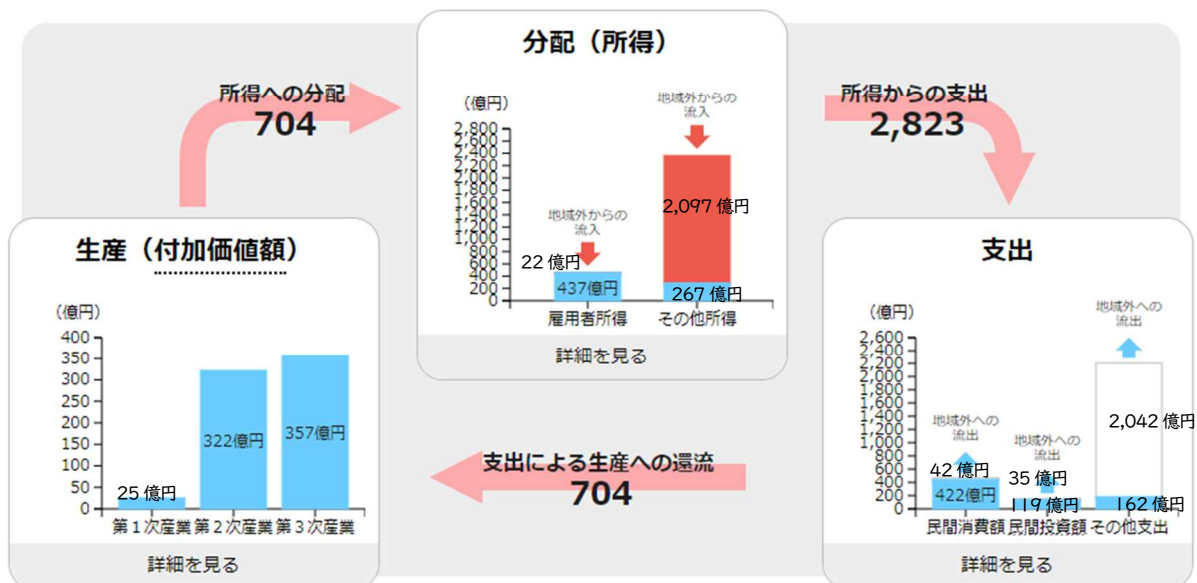
	雇用者所得	その他所得
所得（一人当たり）	147万円	181万円
所得（一人当たり）順位	1,560位	935位

	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	16.1%	-42.3%	-82.8%
支出流出率順位	459位	1,376位	1,143位

地域経済循環率
24.9%

地域経済循環図 2018年

指定地域：岩手県陸前高田市



生産（付加価値額）

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額（一人当たり）	263万円	1,111万円	806万円
付加価値額（一人当たり）順位	850位	480位	894位

- 「生産（付加価値額）」では、地域が生産した商品やサービス等を販売して得た金額から、原材料費や外注費といった中間投入額を差し引き、付加価値額を把握することができます。
- 地域の第1次産業、第2次産業、第3次産業を付加価値額のクラブで比較することが可能です。加えて、地域の当該産業の従業者一人当たりの付加価値額（労働生産性）を表で把握することができます。
- 順位は、全国1,741市区町村におけるランキングとなっています。

分配（所得）

	雇用者所得	その他所得
所得（一人当たり）	245万円	1,259万円
所得（一人当たり）順位	468位	14位

- 「分配（所得）」では、地域産業が稼いだ付加価値額のように所得として渡されたかを把握することができます。
- 「分配（所得）」は、雇用者に支払われた「雇用者所得」と、財政所得、企業所得、交付税、社会保険料、補助金等、雇用者所得以外の「その他所得」で構成されます。
- 各棒グラフは、地域内の住民・企業等が得た所得の総額を示しています。
- 地域内の住民・企業等が稼く所得より、地域の産業が得た所得が少ない場合は、その差額が赤字で表示され、地域外から所得が流入していることを意味します。
- 逆に、地域内の住民・企業等が稼く所得より、地域の産業が得た所得が多い場合は、その差額が黒字の四角で表示され、所得が地域外に流出していることを意味します。
- 上記の表は、従業者一人当たり雇用者所得及び人口一人当たりその他所得を表で把握することができます。
- 表に記載されている順位は、全国1,741市区町村におけるランキングとなっています。

支出

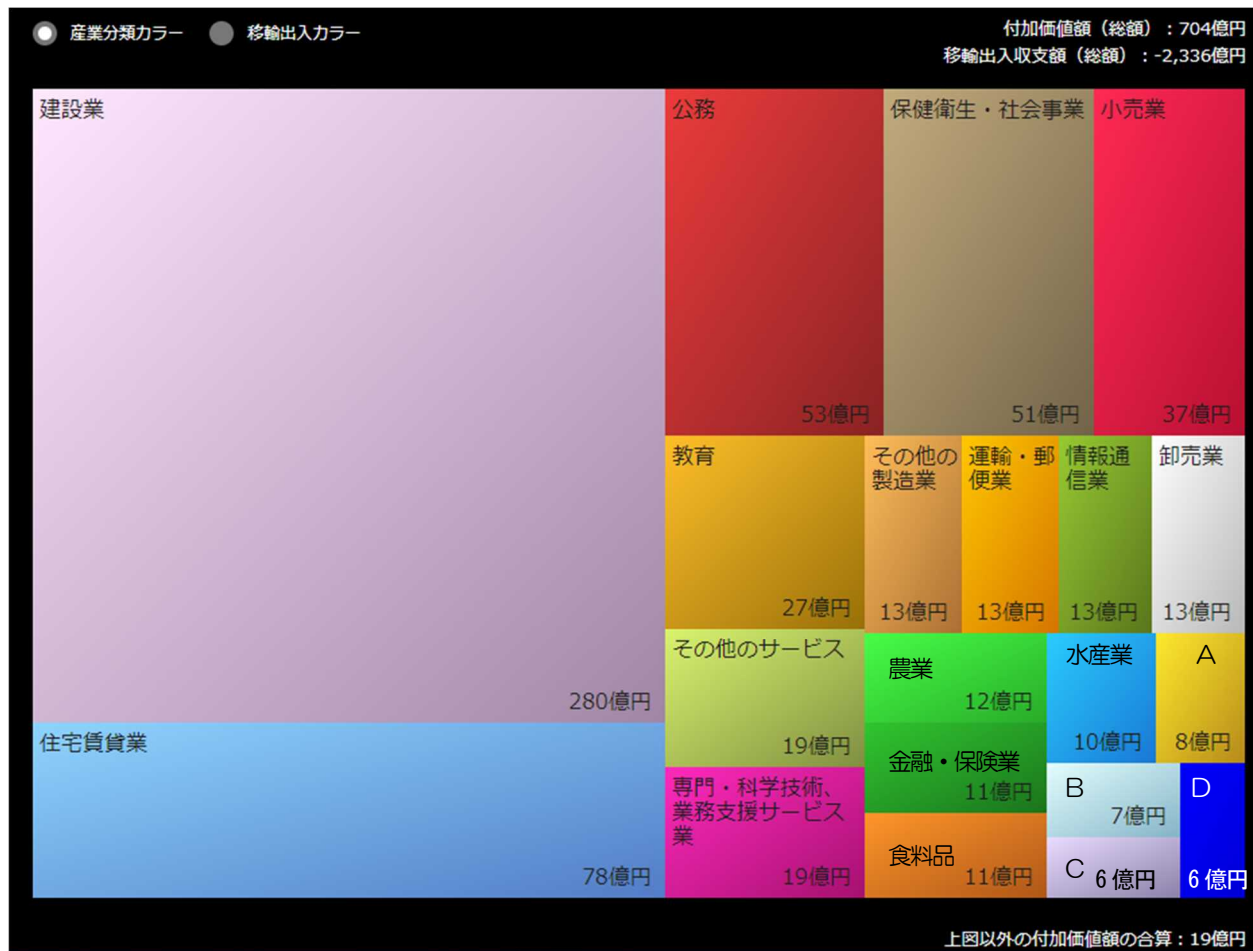
	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	-90%	-229%	-926%
支出流出率順位	1,086位	991位	1,382位

- 「支出」では、地域内の住民・企業等が支出した所得がどのように使われたかを把握することができます。
- 「支出」は、住民の消費等を示す「民間消費額」、企業の設備投資等を示す「民間投資額」、政府支出、地域内産業の繰越金・入金・支出額等を示す「その他支出」で構成されます。
- 各棒グラフは、地域内で消費・投資された金額を示しています。
- 地域内の住民・企業等が支出した金額より、地域内に支出された金額が少ない場合は、その差額が赤字の四角で表示され、支出が地域外に流出していることを意味します。
- 逆に、地域内の住民・企業等が支出した金額より、地域内に支出された金額が多い場合は、その差額が黒字の四角で表示され、支出が地域外から流入していることを意味します。
- 上記の表は、地域内の住民・企業等が支出した金額に対する流出率の比率を示す「支出流出率」を把握することができます。
- 表に記載されている順位は、全国1,741市区町村におけるランキングとなっています。

資料：RESAS＞地域経済循環マップ＞地域経済循環図

(2) 生産分析

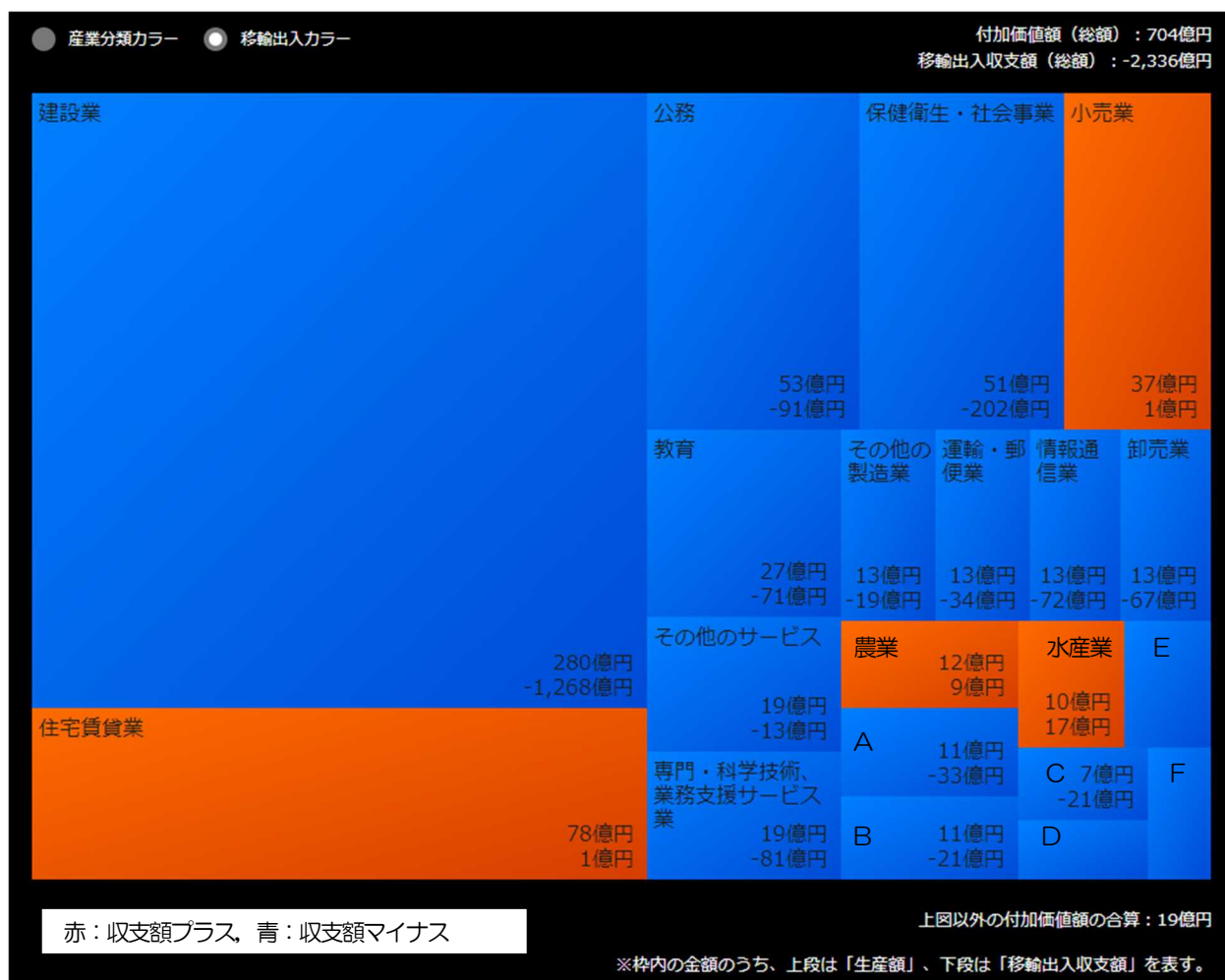
①産業中分類別にみた地域内産業の構成—付加価値額（総額）産業分類カラー（2018 年）



A：宿泊・飲食サービス業、B：廃棄物処理業、C：窯業・土石製品、D：その他の不動産業

資料：RESAS＞地域経済循環マップ＞生産分析

②産業中分類別にみた地域内産業の構成・付加価値額（総額）移輸出入収支額カラー（2018 年）



A：金融・保険業、B：食料品、C：廃棄物処理業、D：窯業・土石製品（付加価値額：6 億円、移輸出入収支額：-19 億円）、E：宿泊・飲食サービス業（付加価値額：8 億円、移輸出入収支額：-27 億円）、F：その他の不動産業（付加価値額：6 億円、移輸出入収支額：-6 億円）

【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
地域経済循環分析 <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html>

【注記】

本データの詳細な分析方法については、以下URLを参照。

<http://www.vmi.co.jp/reca/>

一人当たり生産額＝当該産業生産額÷当該産業従業者数

一人当たり付加価値額＝当該産業付加価値額÷当該産業従業者数

一人当たり雇用者所得＝当該産業雇用者所得÷当該産業従業者数

我が国の国民経済計算体系は、平成 27 年国民経済計算より 1993SNA から 2008SNA に改定されたため、2015 年地域経済循環分析用データも 2008SNA で構築した。これに伴い、2010 年および 2013 年データについても、時系列比較を可能とするため、2008SNA で再構築をしている。

本データは国民経済計算、県民経済計算、国勢調査、経済センサス等のデータを用いて、全国の市町村のデータを統一的方法で作成している。

国民経済計算や県民経済計算は、精度向上を目的に推計方法については絶えず見直しを行っている関係上、随時、過去に遡って改定がなされるため、本データのデータ更新時には、これまで公開していた数値から変化する場合があります。

「公務」の生産活動の産出額は、売上等のデータからは推計できないことから、発注額（＝サービス提供にかかる費用）など経済活動に要した費用の積み上げが産出額となっている。

「住宅賃貸業」には附属家賃が含まれている。

2. まちづくりマップ・From-to 分析

本市内の滞在人口について、1年分のデータが公表されている2022年の月別推移をみると、平日の日中（10時、14時）は、8月を除いて、滞在人口が、国勢調査人口より少なくなっている。どの時間帯も、8月は、平日・休日ともに、滞在人口が多くなっている。

2022年4月、8月、10月の20時の滞在人口に山ができています。4月29日開催の「三陸花火大会」、8月7日開催の「下矢作灯籠七夕」、10月8日に開催された「三陸花火競技大会」による人の流れが影響したものと思われる。

時間による推移を、2022年6月と2023年6月のデータよりみると、平日昼間（10時・14時）の滞在人口率が低くなっている。休日では、2022年は国勢調査人口とほぼ同数で推移しているが、2023年では、昼間（10時・14時）の滞在人口は増えている。

そこで、滞在人口を地域別構成割合でみてみる。ここでは、RESAS データで最も直近となる2023年6月（夏季）と、半年前の2022年12月（冬季）に焦点を当てた。

滞在人口率が1.0倍以上となるのは、冬季では休日の男女共に、夏季では休日の男女共にと平日の男性で見られる。

また、年間を通して、最も滞在人口が高くなる8月の休日日中（10時と14時）の滞在者の居住地別グラフを直近データとなる2022年で示した。

滞在者のうち95%程が岩手県内からで、県外からの滞在人口割合は5%程度である。県内からの内訳をみると、県内の9割近くが本市の滞在人口で、4%程度が大船渡市、2%が盛岡市の順となっている。県外では、宮城県気仙沼市が23～25%と最も多く、次いで仙台市の各区となっている。

※この節で扱うデータについて

【出典】

株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」
総務省「国勢調査」

【注記】

滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」夜間人口）で表される。

滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

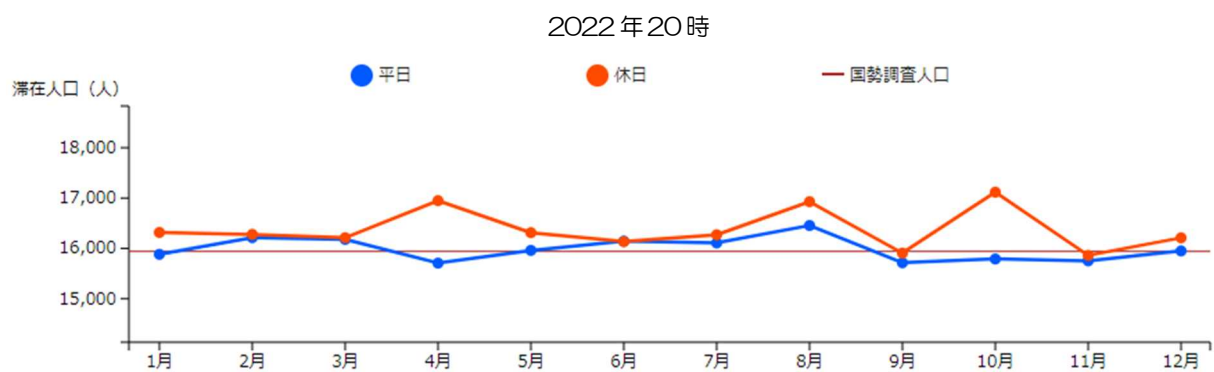
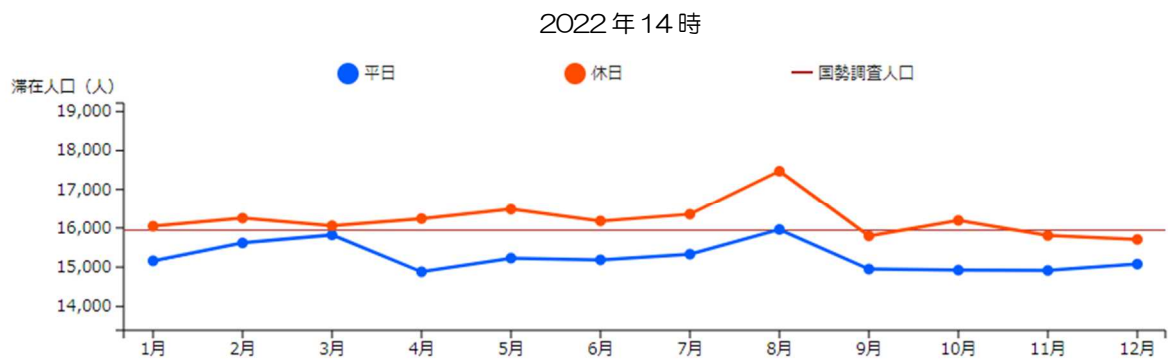
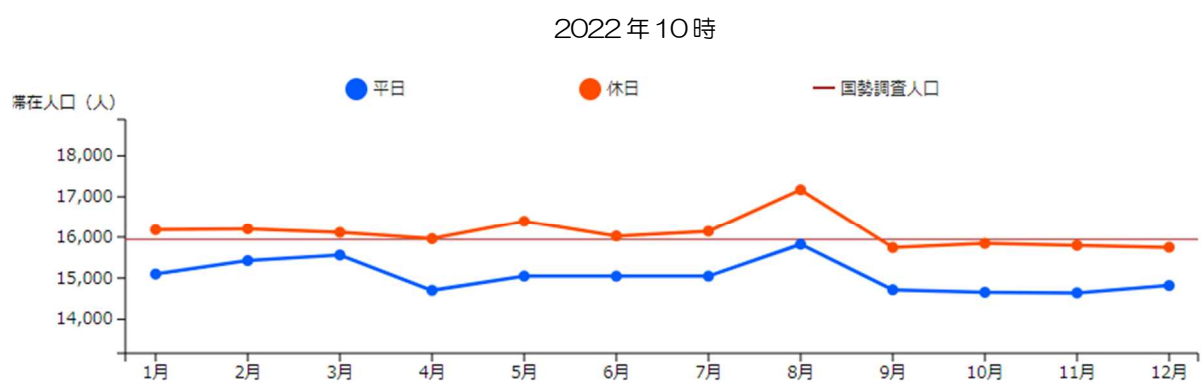
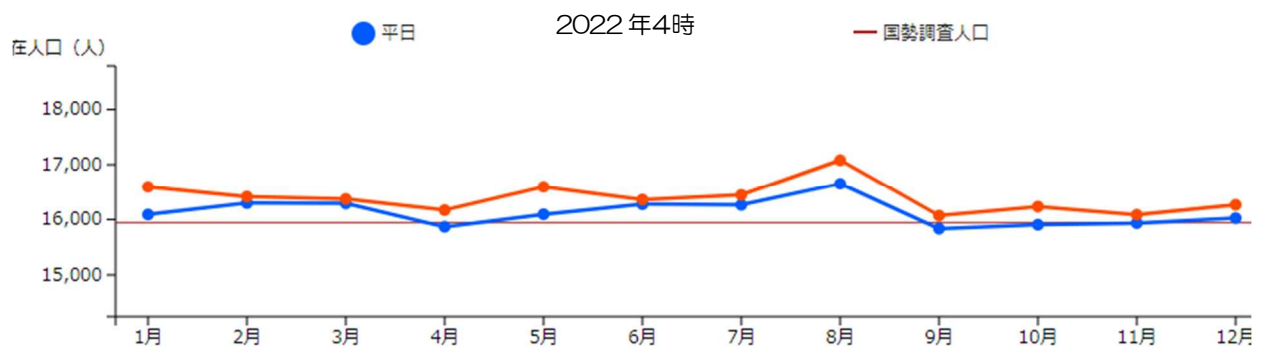
携帯電話の運用データについては国籍に関わらず契約者のデータが使用されていることから、滞在人口の算出には国内に居住する外国人も推計として含まれている。

ここでいう「国勢調査人口」とは、表示対象に指定した性別・年代の人口であり、当該自治体における総人口ではない。

© 2017 NTT DOCOMO, INC. & DOCOMO InsightMarketing, INC. All Rights Reserved.

(1) 滞在人口の月別推移と時間別推移

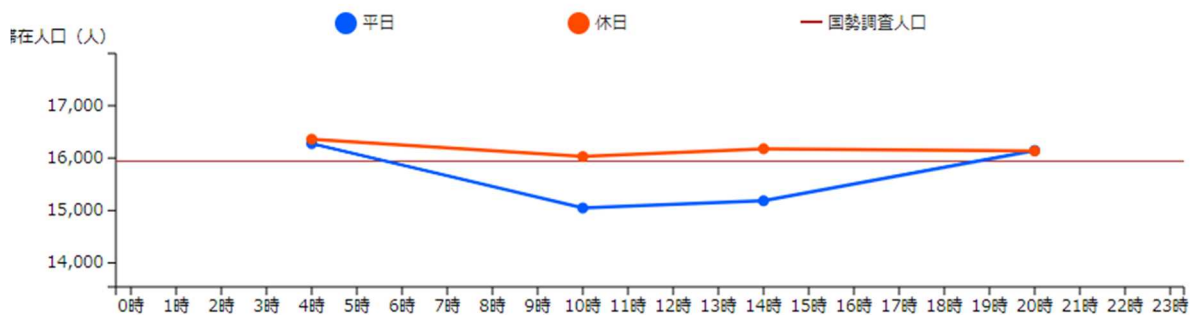
滞在人口の月別推移：岩手県陸前高田市
 総数（15歳以上90歳未満）／（国勢調査人口：15,941人）



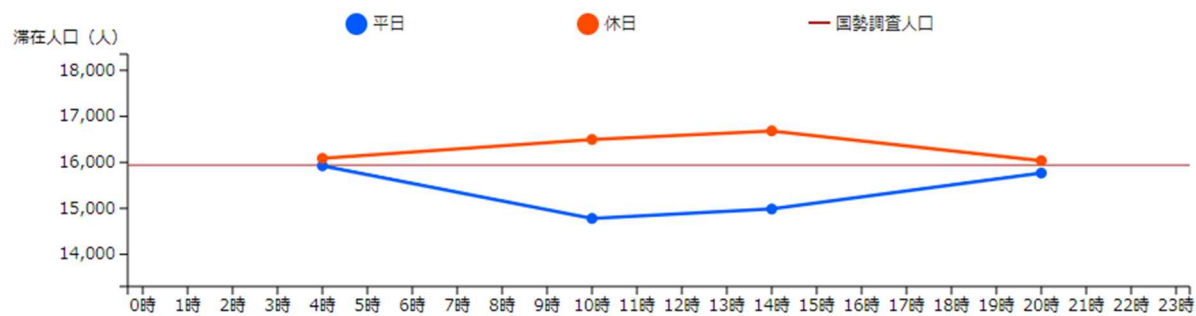
資料：RESAS>まちづくりマップ>滞在人口率

滞在人口の時間別推移：岩手県陸前高田市
 総数（15歳以上90歳未満）／（国勢調査人口：15,941人）

2022年6月



2023年6月



資料：RESAS>まちづくりマップ>滞在人口率

(2) 滞在人口の地域別構成割合

滞在人口の地域別構成割合について、RESAS データで最も直近となる 2023 年 6 月（夏季）と、半年前の 2022 年 12 月（冬季）を整理した。

なお、以下の表においては、いずれも、2020 年の国勢調査人口で集計している（男性：7,790 人、女性：8,151 人、総数：15,941 人）。

① 2022 年 12 月（冬季）

10時	滞在人口（人）						地域区分割合と滞在人口率（％）					
	男性	平日 女性	総数	男性	休日 女性	総数	男性	平日 女性	総数	男性	休日 女性	総数
岩手県内/割合	6,793	7,398	14,191	7,260	7,752	15,012	92.80	93.60	93.21	91.22	92.36	91.81
県外/割合	527	506	1,033	699	641	1,340	7.20	6.40	6.79	8.78	7.64	8.19
合計/滞在人口率	7,320	7,904	15,224	7,959	8,393	16,352	0.94	0.97	0.96	1.02	1.03	1.03

14時	男性	平日 女性	総数	男性	休日 女性	総数	男性	平日 女性	総数	男性	休日 女性	総数
	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数
岩手県内/割合	6,887	7,510	14,397	7,186	7,666	14,852	91.91	92.99	92.47	90.70	91.48	91.10
県外/割合	606	566	1,172	737	714	1,451	8.09	7.01	7.53	9.30	8.52	8.90
合計/滞在人口率	7,493	8,076	15,569	7,923	8,380	16,303	0.96	0.99	0.98	1.02	1.03	1.02

② 2023 年 6 月（夏季）

10時	滞在人口（人）						地域区分割合と滞在人口率（％）					
	男性	平日 女性	総数	男性	休日 女性	総数	男性	平日 女性	総数	男性	休日 女性	総数
岩手県内/割合	6,765	7,310	14,075	7,559	7,854	15,413	86.64	95.51	91.03	83.26	95.20	88.94
県外/割合	1,043	344	1,387	1,520	396	1,916	13.36	4.49	8.97	16.74	4.80	11.06
合計/滞在人口率	7,808	7,654	15,462	9,079	8,250	17,329	1.00	0.94	0.97	1.17	1.01	1.09

14時	男性	平日 女性	総数	男性	休日 女性	総数	男性	平日 女性	総数	男性	休日 女性	総数
	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数
岩手県内/割合	6,818	7,404	14,222	7,524	7,822	15,346	79.70	95.92	87.39	78.75	93.80	85.77
県外/割合	1,737	315	2,052	2,030	517	2,547	20.30	4.08	12.61	21.25	6.20	14.23
合計/滞在人口率	8,555	7,719	16,274	9,554	8,339	17,893	1.10	0.95	1.02	1.23	1.02	1.12

資料：RESAS>まちづくりマップ>From-to 分析（滞在人口）

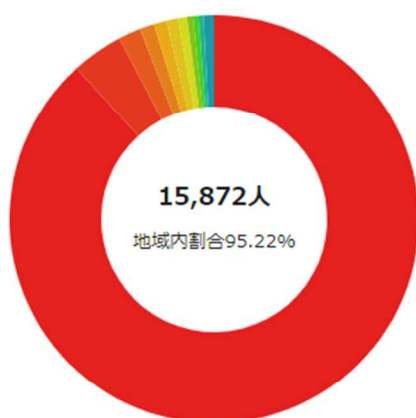
(3) 滞在人口の地域別構成割合〔市町村→市町村〕

総数（15 歳以上 90 歳未満）
2022 年 8 月 休日
（国勢調査人口：15,941 人）

【10 時】

滞在人口合計：16,669 人
（滞在人口率：1.05 倍）

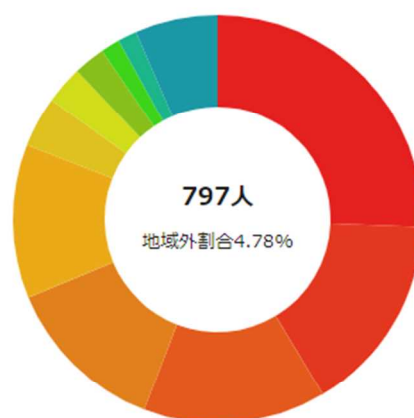
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 岩手県陸前高田市 14,009人（88.26%）
- 2位 岩手県大船渡市 646人（4.07%）
- 3位 岩手県盛岡市 281人（1.77%）
- 4位 岩手県奥州市 181人（1.14%）
- 5位 岩手県一関市 161人（1.01%）
- 6位 岩手県住田町 145人（0.91%）
- 7位 岩手県北上市 111人（0.70%）
- 8位 岩手県花巻市 75人（0.47%）
- 9位 岩手県釜石市 69人（0.43%）
- 10位 岩手県滝沢市 61人（0.38%）
- その他 133人（0.84%）

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

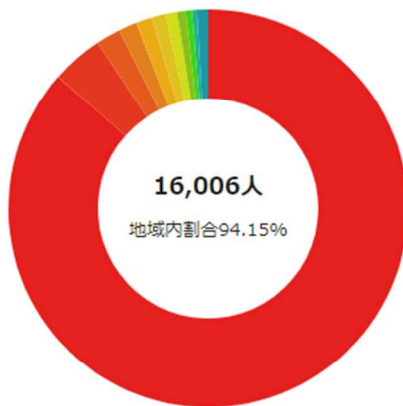
- 1位 宮城県気仙沼市 204人（25.60%）
- 2位 宮城県仙台市青葉区 126人（15.81%）
- 3位 宮城県仙台市太白区 115人（14.43%）
- 4位 宮城県仙台市泉区 103人（12.92%）
- 5位 宮城県仙台市宮城野区 97人（12.17%）
- 6位 宮城県仙台市若林区 32人（4.02%）
- 7位 埼玉県新座市 24人（3.01%）
- 8位 埼玉県川口市 20人（2.51%）
- 9位 埼玉県ふじみ野市 12人（1.51%）
- 10位 宮城県登米市 12人（1.51%）
- その他 52人（6.52%）

【14 時】

滞在人口合計：17,001 人

(滞在人口率：1.07 倍)

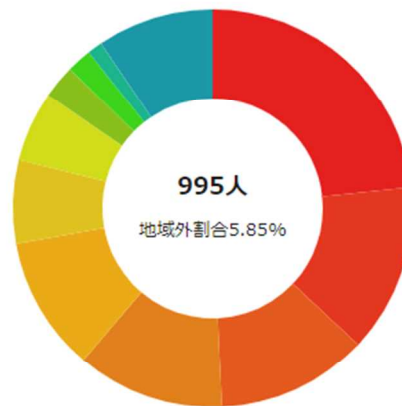
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 岩手県陸前高田市 13,842人 (86.48%)
- 2位 岩手県大船渡市 669人 (4.18%)
- 3位 岩手県盛岡市 320人 (2.00%)
- 4位 岩手県一関市 237人 (1.48%)
- 5位 岩手県奥州市 210人 (1.31%)
- 6位 岩手県住田町 179人 (1.12%)
- 7位 岩手県北上市 150人 (0.94%)
- 8位 岩手県花巻市 111人 (0.69%)
- 9位 岩手県釜石市 84人 (0.52%)
- 10位 岩手県宮古市 61人 (0.38%)
- その他 143人 (0.89%)

滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 宮城県気仙沼市 232人 (23.32%)
- 2位 宮城県仙台市青葉区 136人 (13.67%)
- 3位 宮城県仙台市太白区 122人 (12.26%)
- 4位 宮城県仙台市宮城野区 119人 (11.96%)
- 5位 宮城県仙台市泉区 109人 (10.95%)
- 6位 宮城県仙台市若林区 67人 (6.73%)
- 7位 埼玉県新座市 57人 (5.73%)
- 8位 宮城県登米市 27人 (2.71%)
- 9位 青森県八戸市 20人 (2.01%)
- 10位 東京都練馬区 12人 (1.21%)
- その他 94人 (9.45%)

3. 産業構造マップ

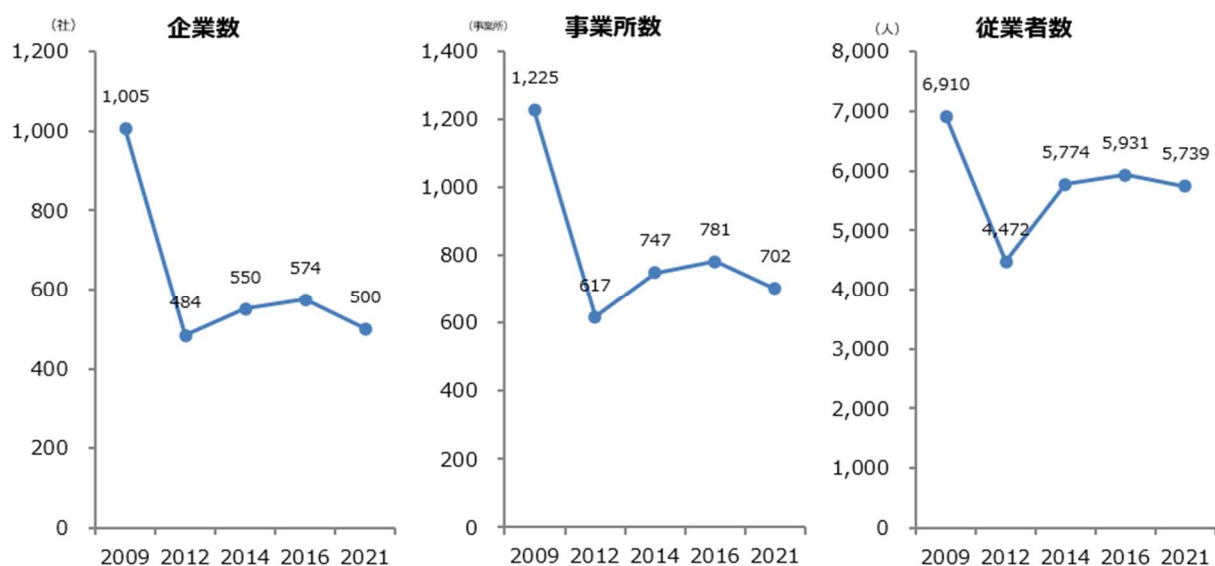
企業数・事業所数・従業者数の推移をみると、震災前 1,000 社余りあった企業数は、震災後 5 割未満にまで落ち込み、2016 年時点で 6 割近くの 574 社まで戻っている。しかし、2021 年時点では 500 社と減少している。事業所数と従業者数の推移をみても同様の傾向があり、2021 年時点で事業所数は 702 事業所（2009 年時点の約 57%）、従業者数は 5,739 人（2009 年時点の約 83%）である。

産業大分類による全産業の構造を、企業数（企業単位）でみると、最も割合が高い産業は「卸売業・小売業」で、全産業の 22.4%を占めている。次いで「建設業」の 16.2%、「生活関連サービス業・娯楽業」の 13.0%となっている。

また、付加価値額（企業単位）でみると、最も割合が高い産業は「建設業」で、全産業の 33.1%を占めている。次いで「製造業」の 19.9%、「医療・福祉」の 18.2%となっている。

全産業の中で、最も企業数の割合が高かった「卸売業・小売業」の年間商品販売額の変化をみると、2014 年、2016 年時点では、卸売業の販売額が小売業の販売額より多くなっているが、2021 年時点では小売業の販売額が卸売業の販売額を上回った。また、事業所数は 2021 年時点で、2012 年の 167%となっている。

（1）企業数・事業所数・従業者数の推移



【出典】

総務省「経済センサス基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

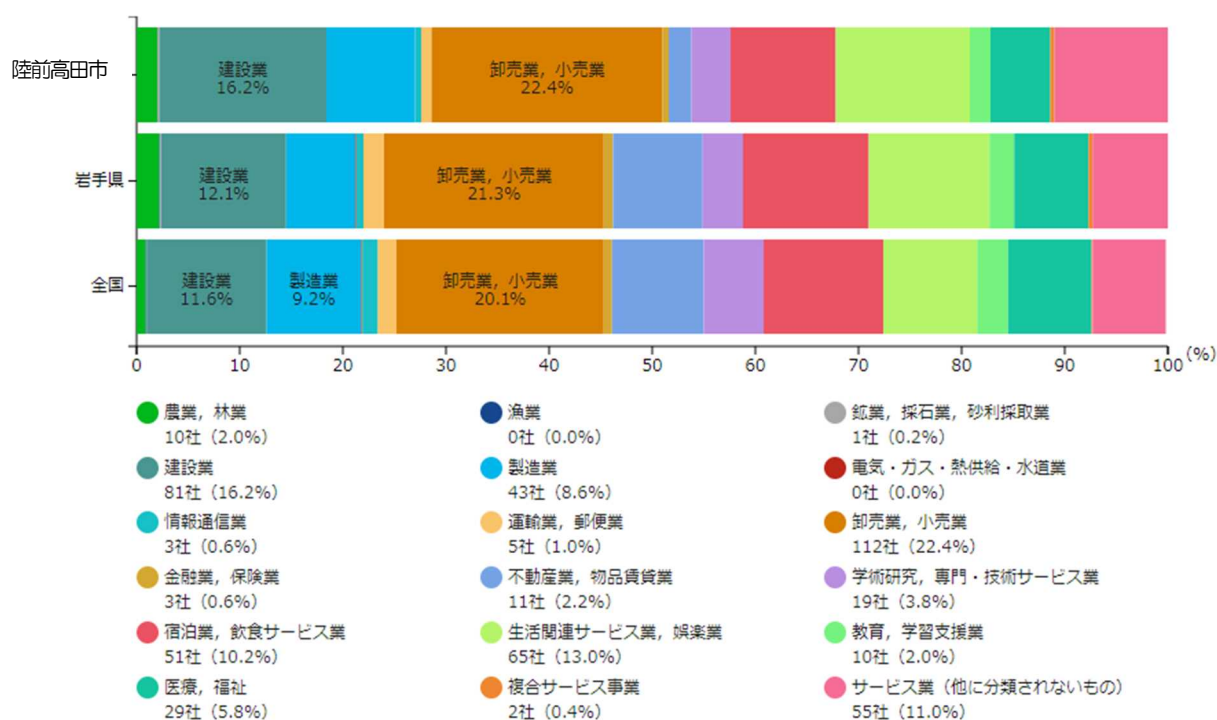
【注記】

企業数については、会社数と個人事業所を合算した数値。従業者数は事業所単位の数値。

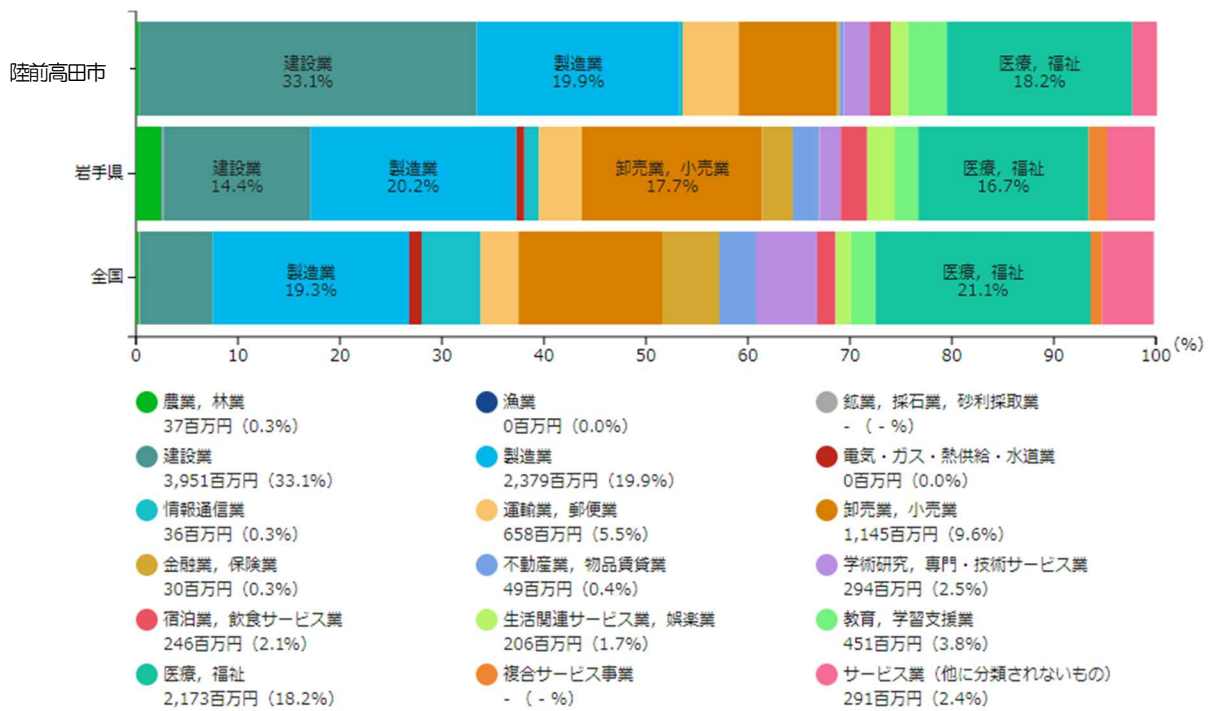
(2) 産業大分類による全産業の構造

企業数（企業単位）でみる

2021 年



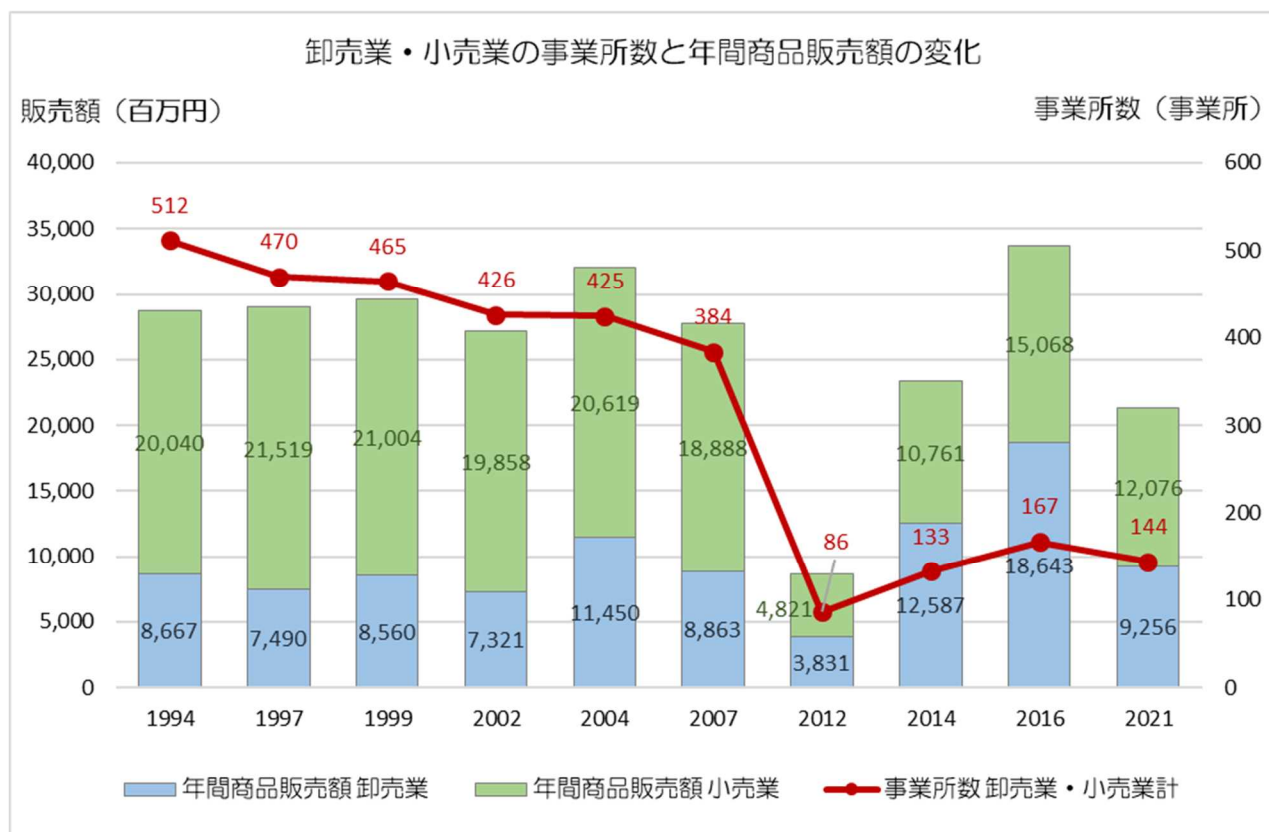
付加価値額（企業単位）でみる
2021 年



【出典】

総務省「経済センサス基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工

(3) 卸売業・小売業の年間商品販売額の変化



【出典】

経済産業省「商業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」より再編加工

Ⅱ 市内来訪者調査

市内の人の流れの参考として、道の駅高田松原への入込客数をみると、下の表の通りである。

道の駅高田松原は、2019（令和元）年9月22日にオープンした。その後、1月には、新型コロナウイルスの感染者が国内でも確認され、緊急事態宣言が出されるなど、コロナ禍での行動制限のある生活が続いたものの、オープン以来、毎年入込客数は増え続けている。

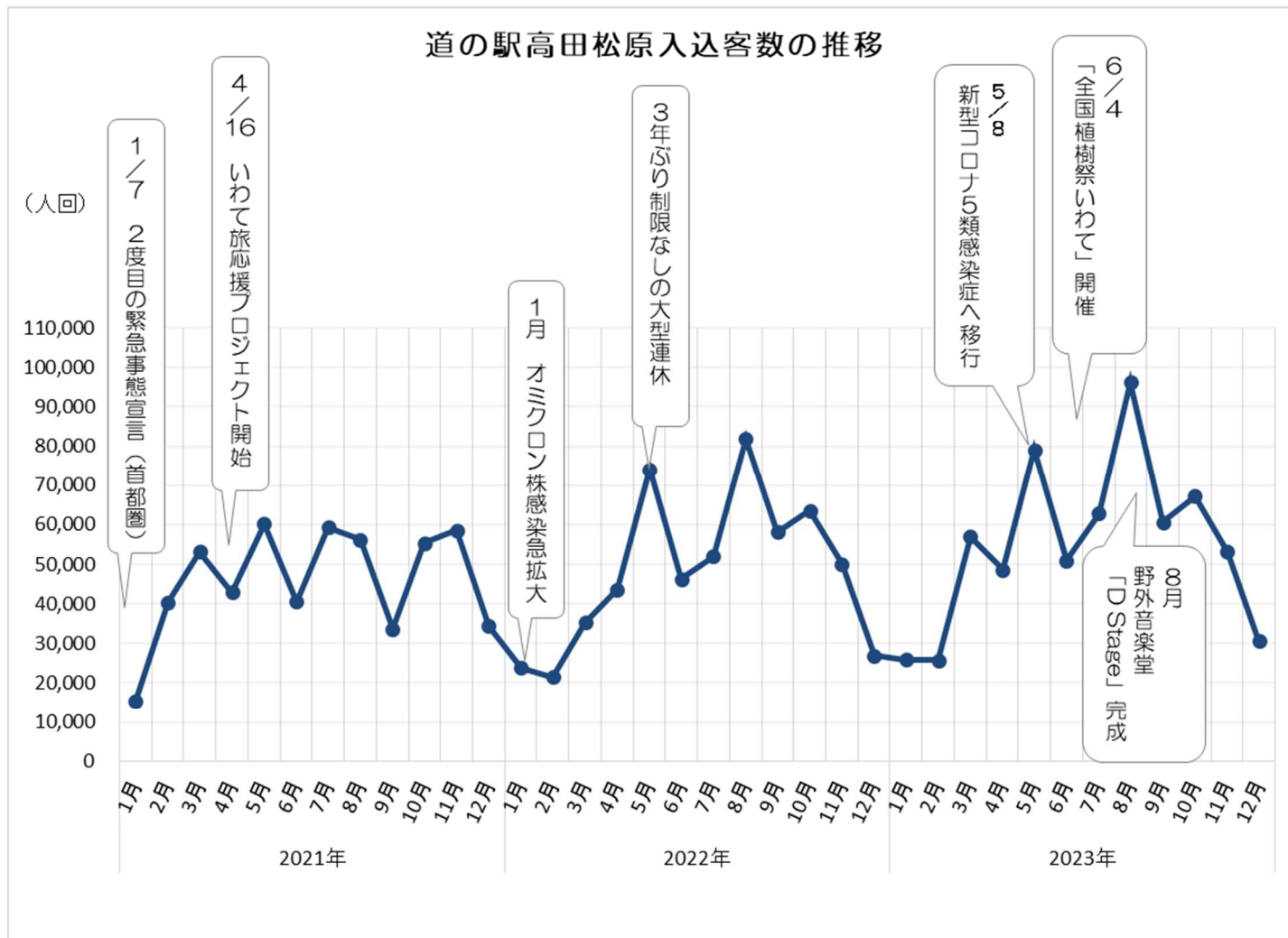
月ごとの平均値をみると、平均値が最も高いのは8月であり、最も低い値は1月である。

2023年5月には、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、行動制限がなくなった。8月には9万人回となり、オープン以来最高値となっている。

次ページに、3年分の推移をグラフに示した。

（人回）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
2019年	—	—	—	—	—	—	—	—	38,800	86,000	77,300	45,600	247,700
2020年	45,200	40,400	61,300	10,200	7,500	34,800	39,600	55,000	44,300	48,500	52,400	26,500	465,700
2021年	15,530	40,400	53,130	42,860	60,200	40,500	59,300	56,300	33,700	55,400	58,600	34,400	550,320
2022年	23,900	21,500	35,300	43,600	74,100	46,200	52,000	81,900	58,100	63,500	50,100	27,000	577,200
2023年	25,900	25,800	56,900	48,600	79,110	51,000	62,800	96,200	60,600	67,200	53,100	30,600	657,810
各月平均	27,633	32,025	51,658	36,315	55,228	43,125	53,425	72,350	47,100	64,120	58,300	32,820	



Ⅲ 岩手県における最近の景況

岩手県内経済の状況について、一般財団法人岩手経済研究所の『岩手経済研究』（2023年4月号で終刊）及びいわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社の『マンスリーレポート』から、「岩手県内経済の動き」を抜粋、要約すると、以下のとおりである。

1. 2023年1月から6月の概況

●県内経済は緩やかな回復の動きにやや足踏み感の後、やや持ち直して推移

1～3月の県内経済は、生産活動では、一進一退の動きが続いているものの、個人消費の回復色が強まっているほか住宅着工も2カ月連続のプラスとなるなど、全体として緩やかな回復の動きとなっている。

需要面においては、小売業主要業態の販売額（6業態合計、全店舗）は、増加傾向で推移しており、6業態中4業態でプラスとなり、16カ月連続で前年を上回った。乗用車新車登録・販売台数（軽乗用車を含む）は、軽乗用車とも二桁台の増加となり、7カ月連続で前年を上回った。1月の公共工事請負額は、2カ月ぶりに前年同月比増となり、2月は、前年同月比0.3%減、3月は前年同月比36.0%増と、一進一退の動きとなった。観光では、1月以降は大幅な回復となっており、1～3月、いずれも、前年同月比で前年を上回った。

生産活動では、1月の鉱工業生産指数は139.1（季節調整値）となり前月比5.0%上昇し、2月は前月比3.5%低下、3月は、前月比0.8%低下、生産活動は足許でやや弱い動きとなった。

有効求人倍率（季節調整値）は、1～3月の有効求人倍率（季節調整値）は、3カ月連続で前月を下回った。地域別（原数値）では盛岡以外の地域でマイナスとなった。

4～6月の県内経済は、生産活動が足許でやや弱含みとなっているほか雇用情勢も有効求人倍率が頭打ちで推移するなど、回復の動きにやや足踏み感が見られたものの、その後、生産活動は一進一退の中、個人消費が拡大の動きを継続し、延べ宿泊者数も増加傾向となるなど、やや持ち直しの動きが続いている。

需要面では、小売業主要業態の販売額（6業態合計、全店舗）は、4～6月において、19カ月連続で増加した。乗用車新車登録・販売台数（軽乗用車を含む）は、登録車、軽乗用車とも増加となり、10カ月連続で前年を上回った。公共工事請負額は4月に2カ月ぶりに減少し、その後、5～6月も3カ月連続で前年を下回った。県内主要観光地の入込み客数は、4～6月、前年を上回って推移し、延べ宿泊者数は前年同月比で6カ月連続、前年を上回った。内訳は、日本人増、外国人も著しい増加となった。

生産活動では、4月の鉱工業生産指数は136.0（季節調整値）となり前月比0.7%上昇した。5月は前月比0.5%低下し、一進一退の動きが続いている。6月は前月比2.7%低下し、主要17業種のうち、電子部品・デバイスや食料品など12業種がマイナスとなり、生産活動は足許でやや弱い動きとなっている。

4月の有効求人倍率（季節調整値）は、5カ月連続で前月を下回り、5月は前月比0.02ポイント上昇の1.25倍と6カ月ぶりに前月を上回った。6月は前月比0.03ポイント低下の1.22倍と2カ月ぶりに前月を下回った。地域別（原数値）では盛岡が前年を上回ったものの、県南、沿岸、県北がマイナスとなった。

2. 2023 年 7 月から 12 月の概況

●県内経済は、全体として緩やかな回復の動き

7～9 月は、生産活動や公共工事が引き続き弱い動きとなったものの、個人消費は全体として拡大が続いているほか、住宅着工が3カ月連続でプラスとなるなど、全体として緩やかな回復の動きとなっている。

需要面においては、7～9 月の小売業主要業態の販売額（6業態合計、全店舗）は、前年同月比増となり、22 カ月連続で前年を上回り、拡大の動きで推移している。7～9 月の乗用車新車登録・販売台数（軽乗用車を含む）は、13 カ月連続のプラスとなった。7～9 月の新設住宅着工戸数は、3 カ月連続で前年を上回った。7月の公共工事請負額は、4カ月ぶりに前年を上回り、8月は2カ月連続で前年を上回った。9月は前年同月比減となり、3カ月ぶりに前年を下回った。観光は、7～8月の県内主要観光地の入込み客数が、二桁台のプラスで推移した。8～9月の延べ宿泊者数は、日本人増、外国人も著しい増加となり、前年同月比増と9カ月連続で前年を上回った。

7～9 月の鉱工業生産指数は、前月比で低下した。9月は、主要 17 業種のうち輸送機械など6業種は増加したものの電子部品・デバイスや食料品など 11 業種が減産となり、全体として低下傾向となっている。

7月の有効求人倍率（季節調整値）は前月と同値の 1.22 倍となった。8月は前月比 0.01 ポイント上昇の 1.23 倍と3カ月ぶりに前月を上回った。9月は前月比 0.01 ポイント低下の 1.22 倍と3カ月ぶりに前月を下回った。地域別（原数値）では全ての地域で前年割れとなった。

10～12 月の本県経済は、生産活動が弱い動きとなっているものの、個人消費の拡大傾向が継続しているほか延べ宿泊者数も引き続き増勢となるなど、全体として緩やかな回復の動きとなっている。

需要面においては、10～12 月の小売業主要業態の販売額（6業態合計、全店舗）は前年同月比増、25 カ月連続で前年を上回り、拡大の動きが継続している。10～11 月の乗用車新車登録・販売台数（軽乗用車を含む）は、15 カ月連続のプラスとなった。12 月は軽乗用車がプラスとなったものの、登録車は前年を下回り、16 カ月ぶりのマイナスとなった。10 月の新設住宅着工戸数は、4カ月ぶりに前年を下回り、11 月は2カ月ぶりに前年を上回ったものの、12 月は前年を下回った。10 月の公共工事請負額は、2カ月連続で前年を下回った。11 月は前年同月比増、2カ月ぶりに前年を上回り、12 月は2カ月ぶりに前年を下回った。観光は、回復傾向が継続し、10 月は前年同月比 3.7%増、11 月も同 22.3%増となった。11 月の延べ宿泊者数は、日本人増、外国人も著しいプラスで、前年同月比 8.3%増と 11 カ月連続で前年を上回った。

10 月の鉱工業生産指数は前月比 0.7%上昇し、主要 17 業種のうち電子部品・デバイスなど6業種は減産となったものの食料品など 11 業種がプラスとなった。11 月の鉱工業生産指数は前月比 0.2%低下し、輸送機械など9業種はプラスとなったものの電子部品・デバイスや食料品など8業種が減産となり、生産活動は弱い動きが継続している。

10 月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.23 倍と2カ月ぶりに前月を上回った。地域別では全ての地域で前年割れとなった。11 月は 1.21 倍と2カ月ぶりに前月を下回り、12 月は 1.23 倍と2カ月ぶりに前月を上回った。県南、沿岸、県北が前年を下回ったものの、盛岡が6カ月ぶりのプラスとなった。